

「まいちゃん、血液検査の結果があまり良くないから、もう一回検査しようか」  
これは、私が小学三年生のときに主治医に言われた言葉だ。そのときの私は心配よりも「また血を採るのいやだな」という気持ちの方が大きかった。たくさんの検査をしたが、原因は分からず、「また半年後ね」と約束をして診察を終え、病院の受付へ向かった。

受付で貰ったものは明細書だけで、母はお金を払っていなかった。疑問に思った私は母に、「お金払わなくていいの？」と聞いた。母は高岡市が子どもの医療費を払ってくれているからお金を払わなくて良いということを教えてくれた。

私の住む高岡市では、十八歳の成人を迎えるまで医療費を助成してくれる制度がある。同じ富山県内でも、十五歳未満までという市町村があるそうだ。また他県では、就学前までを助成の対象しているところが多いらしい。私は当たり前に受けていた治療や通院にかかる費用が、全て税金でまかなわれていたことに驚いた。高岡市には、約二万人の子どもが生活している。その医療費は年間を通すと相当な額になるのではないだろうか。

大人たちが必死に働いて得たお金から集められた税金。それによって元気な私が無料で検査をしてもらっていると考えると、少し申し訳ない気持ちになる。しかし、そのおかげで親は安心して子どもを病院へ連れていくことができる。私自身、早期発見による治療を受けており、安心して普通の生活を送ることができている。もしあのとき、病院で検査をしていなかったら、適切な治療を受けられなかったかもしれない。もし医療費の補助がなかったら、親に金銭面の大きな負担をかけていたかもしれない。きっと、同じように感じている人はたくさんいるのだと思う。税金が、私たち子どもの健やかな成長を助けてくれており、子育てをする親の負担を軽くしてくれている。そして、未来への希望を持たせてくれている。

現在も私の通院は続いている。誰かが納めてくれた税で、発見することのできた一つの病気。治療を続けていけるのも、税金のおかげだ。

私には今、一つの夢がある。それは医療従事者になることだ。私のように病気のことによって不安に思っている人を助けたい。もっともっと安心して医療を受けられる環境をつくりたい。このように夢を持つことができたのも税金のおかげだ。

いつかその夢が実現したとき、私は未来ある子どもたちのために税金を納めたい。支えられる側から支える側となり、胸を張ってこれからの人生を歩んでいきたい。